

2009年6月25日

仮想化システム運用支援サービスを開始

稼働情報の「見える化」により、仮想化システム導入後の最適な運用を支援

株式会社日立情報システムズ（本社：東京都品川区大崎、執行役社長：原 巖、以下 日立情報）は、仮想化環境で稼働するシステムの効果的・効率的な運用を支援する「仮想化システム運用支援サービス」を、本日より開始します。

仮想化技術を活用したサーバの統合により、サーバ台数の削減を図る企業・団体が増加しています。しかし、仮想サーバと物理サーバが混在するシステム環境では、障害発生箇所の特定や物理リソース全体の利用率管理など独自の運用ノウハウが求められます。そのため、仮想サーバを導入した企業等では、仮想化システム全体の性能を高める運用管理の実現という課題を抱えています。

こうした背景から日立情報では、自社の基幹システムをはじめとする仮想化システムの豊富な運用実績を活かし、障害の検知やシステム全体のパフォーマンス最適化を実現する仮想化システム運用支援サービスを提供します。これにより、既に提供中のサーバ統合などの仮想化システム構築サービスとあわせて、仮想化システムの構築から運用までをトータルにサポートします。

日立情報では本サービスを、仮想化システムの運用に悩む企業・団体へ拡販し、2011年度までに160社、累計で7億円の売上を目指します。

<サービスの概要>

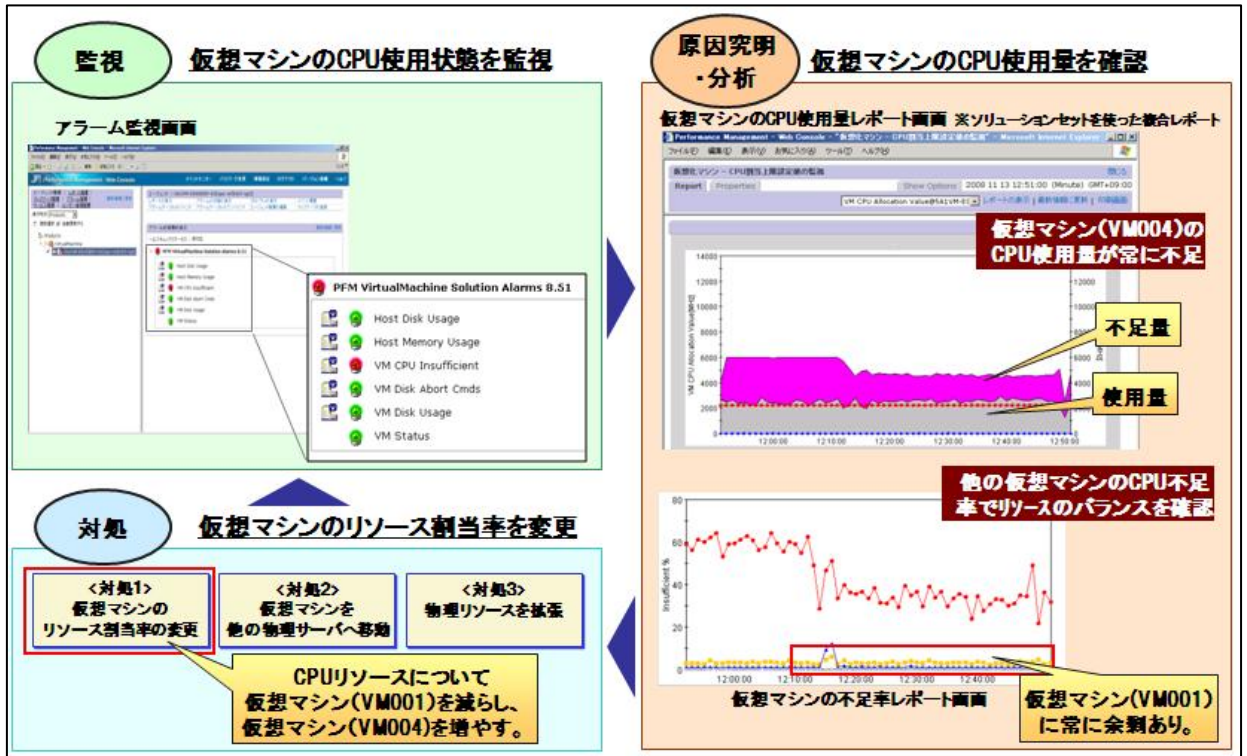
仮想化システムの全体構成、障害・稼働状況など、運用管理のライフサイクルの中で必要な情報を「見える化」する「運用支援システム構築サービス」、システムの稼働状況を一定の期間、収集した上で、その状況を分析してレポートする「性能評価・分析支援サービス」の2種類を提供します。

サービスメニュー	サービスの内容・特長
運用支援システム構築サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)日立製作所の運用管理ツール「JPI」により、物理サーバと仮想サーバが混在した仮想化システム全体の稼働状況を一つの画面で一元管理します。これにより、業務への影響範囲の確認や、対策の必要な障害発生サーバ（物理サーバ）の特定を迅速に行うことができます。 ・仮想サーバの稼働状況をリアルタイムで監視し、リソース使用状況の確認や閾値超過時の検知及び通知を行います。これにより、仮想サーバを含めたシステム全体のパフォーマンス最適化を実現できます。
性能評価・分析支援サービス	<p>(株)アイ・アイ・エムのキャパシティ管理ツール「ES/1 NEO」により、お客様の仮想化環境より一定期間（通常1ヶ月）収集したリソース情報をもとに性能分析を行い、稼働評価・分析レポートを提供します。これにより、専用のツールを購入することなく、専門家による解説付きの稼働レポートを入手できます。</p>

< サービスイメージ >

【運用支援システム構築サービス】

JP1 による稼働監視例



【性能評価・分析支援サービス】

稼働評価・分析レポート事例



* 記載の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

< お客さまからのお問合せ先 >

商品問い合わせ窓口

お問い合わせWebフォーム: <http://www.hitachijoho.com/contact/>

< 報道機関の問い合わせ先 >

CSR 本部コーポレート・コミュニケーション部 松林、根本

TEL 03-5435-5002 (ダイヤルイン) email: press@hitachijoho.com